

2021年～2022年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録

高橋 弘樹¹⁾

はじめに

筆者が2021年から2022年にかけて兵庫県西播磨地域(相生市, たつの市, 赤穂市, 宍粟市, 太子町, 上郡町, 佐用町の7市町. ただし太子町では実施できなかった.)で行ったライトトラップにおいて採集・撮影した蛾類のうち, 兵庫県内での記録が少ないか, 少ないと思われるものについて報告する. なお, 筆者採集・撮影のものは氏名を省略している.

ライトトラップについてはHIDサーチライト55w1灯を使用したもので, 晩秋～早春にはLEDブラックライト20w1灯を併用した. 2022年春以降は三村貴之氏所有のHIDサーチライトを併設することもあった. なお, サーチライト使用により他者への影響が懸念される場合や林内等の小場所では蛍光灯ワークライト13wを使用した.

各種資料

1. ミサキコミズメイガ *Paraponyx moriutii* Yoshiyasu, 2005 (図1)

たつの市内でのライトトラップに1頭が飛来した. 現地は児童公園や土の広場として整備された山裾の雑木林内で, 広場の脇には細流が流れ, 少し上流には隠田跡とされる湿地がある.

那須ほか(2013)によると本種の分布は大阪府及び和歌山県, タイプ産地は大阪府岬町で, 大阪府レッドリスト(2014)では絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられている.

インターネット上の「YAMKENの明石の蛾達」には明石公園で撮影された画像が掲載されている. 幼虫は水生である.

【撮影記録】兵庫県たつの市揖保川町黍田. 1ex., 14. VI. 2021.

2. サツマスズメ *Theretra clotho* (Drury, 1773) (図2)

2022年7月15日21時半頃, たつの市新宮町光都でのライトトラップに1頭が飛来した. 落ち着くことなく一旦飛び去ったが, しばらくすると戻ってきたので21時45分に撮影した.

同年8月5日に上郡町で行ったライトトラップでは, 22時20分に幕近くの路上に1頭が静止しているのを

同行者の小野塚流鳩氏が発見し, 筆者が採集した. どちらの個体も体毛や鱗粉の欠落の少ない美しい個体で, 7月は激しい夕立の後の霧の中, 8月は非常に蒸し暑い中での実施だった.

本県での記録はこれまで無かったが, 池田・阪上(2020)は, 周辺では岡山県や紀伊半島の熊野に記録があり, 県内でも得られる可能性が高いと予測していた.

【撮影・採集記録】兵庫県たつの市新宮町光都, 1ex., 15. VII. 2022.; 兵庫県上郡町金出地, 1ex., 5. VIII. 2022.

3. タツタカモクメシャチホコ *Kamalia tattakana* (Matsumura, 1927) (図3)

純白の地に黒が映える大型のシャチホコガで, 胸部の黒斑は光の当たり方によって青く輝く.

筆者は上郡町でのライトトラップで2022年5月31日20時39分と, 同年6月3日21時19分に各1頭を採集した. また同年6月18日には宍粟市波賀町でのライトトラップに1頭が飛来し, 同行者の石川哲也氏によって採集された.

本県では各地で採集されているという伝聞情報はあるものの, 発表されている記録は今のところ宍粟市波賀町引原(高島, 1999)のみである.

【採集記録】兵庫県上郡町金出地, 1♂, 31. V. 2022.; 同地, 1♂, 3. VI. 2022.; 兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex. 18. VI. 2022. 石川哲也.

4. ヤクシマドクガ *Orgyia triangularis* Nomura, 1938 (図4)

♂の前翅はやや緑色を帯びた褐色, 後翅は黒褐色で三角形の橙黄色部がある. ♀は大きく, 全体的に淡色である(岸田, 2011), 兵庫県RDB(2012)に暖地の樹林に生息する種で個体数が少なく, 近年の確認例は1例のみとあり, 県内分布記録は佐用町, 丹波市, 南あわじ市となっている.

筆者は2021年の6月と9月, 2022年の6月に上郡町の川沿いや雑木林, たつの市の雑木林でのライトトラップで計14頭を確認した. その他, 相生市矢野町瓜生でも2♂を確認している(高橋, 2022).

¹⁾Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

【撮影記録】兵庫県上郡町金出地, 3♂1♀, 12. VI. 2021.; 同地, 5♂, 6. IX. 2021.; 兵庫県たつの市揖保川町黍田, 4♂, 14. VI. 2021.; 同地, 1♂, 15. VI. 2022.

5. コシロオビドクガ *Numenes disparilis* Staudinger, 1887 (図5)

2022年9月3日にライトトラップに飛来した1♀を採集した。同月17日20時12分にも1♀が飛来し、同行者の三村剣義氏が採集した。

シロオビドクガに似るが小型で、♂は後翅の中央部に白色部があること、♀は前翅の白帯の色合いと基部に近い帯の形状の違いにより区別できる。

岸田(2011)には局地的で少ない種とあり、本県産の♀標本が図示されている。本県ではそれ以外に1984年の三日月町(佐用町)(川副, 1987), 1988年の引原ダム(高島, 1995)の記録しか見つけられなかった。ただし岡山県では北部・中部で普通とされている(岡山県, 2019)。♂は昼行性である。

【採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1♀, 3. IX. 2022.; 同地, 1♀, 17. IX. 2022. 三村剣義。

6. センジモンアツバ *Paragona cleorides* Wileman, 1911 (図6)

前翅は灰白色で暗灰色鱗が混ざり、中央部が赤褐色を帯びることでウスグロセンジモンアツバと区別できる(岸田, 2011)。カメラ等で拡大すると腹部背面の金属光沢のある鱗片がきらめいている。

西播磨地域では6月から10月にかけてライトトラップにしばしば飛来し、その頻度はウスグロセンジモンアツバよりも多いが、本県での記録は見当たらない。なお筆者は相生市矢野町瓜生でも本種を確認している(高橋, 2022)。

【撮影記録(一部)】兵庫県たつの市新宮町牧, 1ex., 13. VIII. 2022.; 兵庫県上郡町光都, 2exs., 13. VI. 2022. 兵庫県上郡町金出地, 2exs., 10. VII. 2021.; 同地, 2exs., 24. VI. 2022.; 同地, 1ex., 2. IX. 2022.; 同地, 1ex., 16. IX. 2022.; 同地, 2exs., 3. X. 2022.; 兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 3. IX. 2022.; 同地, 1ex., 17. IX. 2022.

7. ナマリキシタバ *Catocala columbina* Leech, 1900 (図7)

上郡町のやや広い草地にライトトラップ機材を設置し、松の多い雑木林を照射したところ1頭が飛来したので採集した。飛来時刻は21時41分で、当日はほぼ満月の曇天、蒸し暑かったが蛾類の飛来は比較的少なかった。

本県では宝塚市(高島, 2004)・上郡町赤松で成虫、新温泉町・神戸市・西宮市で幼虫の記録が公表されているが、赤松で記録されたのは1984年の1例のみである(阪上ほか, 2017)。

【採集記録】兵庫県上郡町光都, 1♂, 13. VII. 2022.

8. ヒメシロシタバ *Catocala nagioides* Wileman, 1924 (図8)
宍粟市波賀町でのライトトラップで1頭を採集した。飛来時刻は21時31分である。

本種の分布は西日本では局所的で、新温泉町(宇野, 2021), 香美町、宍粟市から記録されている。宍粟市の記録は波賀町引原で1982年(阪上ほか, 2017)と1983年(高島, 2004)に得られたものである。

【採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 3. IX. 2022.

9. ホソバミツモンケンモン *Cymatophoropsis unca* (Houlbert, 1921) (図9)

上郡町でのライトトラップで1頭を採集した。飛来時刻は23時18分である。

全国的に見ても局地的な分布をし(兵庫県, 2012)、本県では佐用町でのみ得られている(徳平, 2010; 藤江ほか, 2011)。

【採集記録】兵庫県上郡町金出地, 1ex., 5. VIII. 2022.

10. エチゴハガタヨトウ *Asidemia inexpecta* (Sugi, 1963) (図10)

本種は局地的な分布をする(高島, 2002)が、播磨科学公園都市周辺では珍しいものではなく、7月から9月にかけてライトトラップを行えばほぼ毎回飛来する蛾である。5月上旬にも1例であるが確認している。

筆者は2021年から数多く撮影しているがこれまで同定を保留していた。しかし今回、阪上洗多氏の協力で本種であることが判明したため、本県の初記録として報告する。

高島は上記で本種を今後記録される可能性のある種として挙げていた。

【撮影・採集記録(一部)】兵庫県上郡町光都, 1ex., 17. VII. 2021.; 兵庫県上郡町金出地, 2exs., 2. VII. 2021.; 同地, 2exs., 6. IX. 2021.; 同地, 2exs., 27. IX. 2021.; 同地, 1ex., 6. V. 2022.; 同地, 4exs., 25. VII. 2022.; 同地, 3exs., 15. VIII. 2022.; 同地, 2exs., 16. IX. 2022.

11. ウスベニキリガ *Orthosia cedermarki* (Bryk, 1948) (図11)

主に低地に生息し、4月~5月に成虫が見られる。兵庫県RDB(2012)には個体数が少なく平地性のキリガの中では得にくい種の一つとあり、県内分布記録は神戸市、西宮市、宝塚市、西脇市、佐用町、南あわじ市となっている。宝塚市では2016年にも採集されている(宇野, 2020)。

筆者は2022年4月9日19時19分、たつの市の雑木林内でライトトラップに飛来した1頭を採集した。そ

の後 20 時前後に 3 頭が飛来したが, 落ち着くことはなく短時間で飛び去ってしまった. 同月 11 日と 18 日にも同地でライトトラップを行ったが両日ともイノシシの接近により短時間で撤収せざるをえず, 本種の飛来も無かった. なお, 糖蜜採集では成果は無かった.

【採集記録】兵庫県たつの市揖保川町黍田, 1 ♀, 9. IV. 2022.

12. エゾチャイロヨトウ *Lacanobia splendens* (Hübner, [1808]) (図 12)

2022 年 7 月 25 日 21 時頃から上郡町の川沿いでライトトラップを行ったところ, 点灯直後の 21 時 13 分に 1 頭が飛来したので撮影し, 後日阪上洗多氏の助力により本種であることが判明した. その後 9 月 2 日に同地のライトトラップで 1 頭を採集した. 飛来時刻は 20 時 33 分だった.

本種は沼沢地に依存するため局地的な分布をしている (植田, 2009). 岸田 (2011) での分布は北海道, 本州中部以北となっているが, 本県では神河町の砥峰高原で 5 月から 8 月に計 26 頭の記録がある (八木ほか, 2003; 植田, 2009).

【撮影・採集記録】兵庫県上郡町金出地, 1ex., 25. VII. 2022.; 同地, 1ex., 2. IX. 2022.

13. モモイロフサクビヨトウ *Sideridis mandarina* (Leech, 1900) (図 13)

宍粟市波賀町のライトトラップで撮影した. 撮影時刻は 21 時 59 分である.

フサクビヨトウに似るが, 前翅がピンク色を帯びることで区別できる. 寄主植物はナデシコ科ではないかと考えられている (岸田, 2011).

北海道から九州に至る本土域で記録されているがあまり多い種ではないようで, 本県では氷ノ山での 1 例の報告 (高島, 2000) 以外見つけられなかった. そこで引用された記録は 1974 年発表のものである.

【撮影記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 17. IX. 2022.

14. カバイロキヨトウ *Mythimna iodochra* (Sugi, 1982) (図 14)

2022 年 5 月 7 日に宍粟市波賀町でのライトトラップで前翅が淡黄色の春型の個体 1 頭を撮影した. 同 21 日にも同地で 2 頭が飛来し, うち 1 頭を採集できた.

夏型は 8 月頃に発生し, 赤みの強い黄色 (岸田, 2011), つまり樺色となるが同地では確認できなかった.

湿性草原に生息するが分布は極めて局地的かつ個体数も少ない種で, 西脇市, 養父市, 篠山市 (丹波篠山市) (兵庫県, 2012), 朝来市 (坪田, 2021) で記録されている.

【撮影・採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 7. V. 2022.; 同地, 2exs., 21. V. 2022.

15. ウスイロキヨトウ *Mythimna inanis* (Oberthür, 1880) (図 15)

2022 年 5 月 7 日に宍粟市波賀町の溪谷沿いのライトトラップで 1 頭を撮影, 同 21 日に同地で 3 頭を採集した.

本種は北海道から本州中部にかけて分布の中心があり, 九州の久住高原にも産する (高島, 2000). 本県では 1976 年に宍粟市引原ダム (遊磨, 1979), 2021 年に香美町東鉢伏高原 (坪田・高橋, 2021) で採集されている. なお, 岸田 (2011) には本県産の標本が図示されている.

【撮影・採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 7. V. 2022.; 同地, 3exs., 21. V. 2022.

謝辞

末筆ながら, 種々ご指導頂いた池田大氏及び八木剛氏, 同定や情報の提供をお願いした阪上洗多氏, 調査にたびたび同行していただいた佐用町昆虫館キッズスタッフの三村剣義氏, 石川葉奈, 元貴, 大馳氏と両家のご両親に御礼申し上げる.

参考文献

- 池田大・阪上洗多, 2020. 兵庫県のスズメガ. きべりはむし, 43(2): 26-45.
- 植田義輔, 2009. 2004 年 5,6,7 月に砥峰高原で採集された蛾類. きべりはむし, 32(1):44-48
- 宇野宏樹, 2021. 兵庫県新温泉町におけるヒメシロシタバの記録. きべりはむし, 44 (2):52.
- 宇野宏樹, 2020. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II. きべりはむし, 43(1):18-28.
- 大阪府, 2014. 大阪府レッドリスト 2014. 16. <https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/6.konchu.pdf> (参照 2022 年 9 月 3 日)
- 岡山県, 2019. 岡山県野生生物目録 2019 「Ver1-3」 2022 年 6 月 14 日更新 <https://www.pref.okayama.jp/page/602836.html> (参照 2022 年 9 月 6 日)
- 川副昭人, 1987. 佐用郡三日町蛾覚え書. てんとうむし, 10, 289-298.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I, 167. 学習研究社.
- 阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2):25-36.
- 高島 昭, 1995. 波賀町引原ダム周辺における蛾相 第 2 報. きべりはむし, 23(2): 10-23
- 高島 昭, 1999. 兵庫県のシャチホコガ (1) 兵庫県産蛾類分布資料・13. てんとうむし, 13:65-79.
- 高島 昭, 2000. 兵庫県のヨトウガ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・18). きべりはむし, 28(2):59-76.

- 高島 昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科 (その1)
兵庫県産蛾類分布資料・24. きべりはむし,
30(1):80-93.
- 高島 昭, 2004. 兵庫県のシタバガ亜科 兵庫県産蛾類分
布資料・30. きべりはむし, 31(2):25-43.
- 高橋弘樹, 2022. 相生市「羅漢の里」公園で確認され
た蛾類の記録 (1) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 -
2022 -. きべりはむし, 45(2):41-51.
- 坪田 瑛, 2021. 兵庫県で報告の少ないヤガ科について.
きべりはむし, 44(1):44-50
- 坪田 瑛・高橋輝男, 2021. 2021 年の東鉢伏高原に
おける注目すべき蛾類について. きべりはむし,
44(2):18-24
- 徳平拓朗, 2010. ホソバミツモンケンモンの兵庫県にお
ける記録. きべりはむし, 32(2):41.
- 那須義次, 広瀬俊哉, 岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類
標準図鑑Ⅳ, 405. 学習研究社.
- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデー
タブック 2012(昆虫類).
- 藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭 和也・
藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆
虫相 - マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目,
双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆
虫について -. きべりはむし, 33 (2):4-20.
- 八木 剛・中西明德・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・
勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高島 昭・谷口
登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹
男・山崎敏雄・吉田 武, 2003. 砥峰高原の昆虫相
-2002 年の昆虫調査から -(第一部). きべりはむし,
31(1):1-46
- 遊磨正秀, 1979. 宍粟郡波賀町引原ダムの蛾類について
(I). きべりはむし, 7(2):2-16
- YAMKEN の明石の蛾達, ミサキコミズメイガ. <http://yamken.jp/yam-hp3/misakikomizumeiga.html> (参
照 2022 年 10 月 10 日).



図1 ミサキコミズメイガ
2021.6.14



図2 サツマスズメ
2022.7.15



図3 タツタカモクメシャチホコ
2022.5.31 採集



図4 ヤクシマドクガ
2021.6.14



図5 コシロオビドクガ
2022.9.3 採集



図6 セニジモンアツバ
2021.7.10



図7 ナマリキシタバ
2022.7.13



図8 ヒメシロシタバ
2022.9.3 採集



図9 ホソバミツモンケンモン
2022.8.5



図10 エチゴハガタヨトウ
2021.9.6



図11 ウスベニキリガ
2022.4.9



図12 エヅチャイロヨトウ
2022.7.25



図13 モイロフサクビヨトウ
2022.9.17



図14 カバイロキヨトウ
2022.5.7



図15 ウスイロキヨトウ
2022.5.7